

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特殊研究 a	魯 恩碩
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書形成の歴史と聖書解釈の歴史に対する理解を深めるための特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 今学期は、アレクサンドリア学派のアレゴリカルな解釈、アンティオキア学派のディポロジカルな解釈、アウグスティヌスやトマス・アキナスなどによる四重の解釈、近代以降の歴史批評学的解釈などの様々な聖書解釈の方法を検討する。その後、講師の拙著である『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』を読みながら旧約聖書形成史に関する最近の研究動向を把握する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 緒論的問題 3. Origen の聖書解釈 4. Diodore の聖書解釈 5. Augustine の聖書解釈 6. Luther と Calvin の聖書解釈 7. Spinoza の聖書解釈 8. Wellhausen の聖書解釈 9. 現代聖書学の聖書解釈 10. Qumran 共同体の敬虔性 11. 旧約聖書における審判思想の歴史的発展過程 12. 紀元前 7 世紀から 6 世紀までのユダヤ共同体における社会経済的变化の過程 13. 紀元前 4 世紀の Yehud の政治状況と五書の正典化の関係 14. 「契約の書」の時代背景 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Johannes Unsok Ro 『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』 (Sheffield Phoenix Press, 2013), 学生各自で購入する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> ディスカッションなどによる授業への貢献が 3 割、プレゼンテーションが 3 割、期末レポート (5,000~6,000 字) が 4 割。期末レポートは、最終授業日に提出すること。レポートの採点基準は、論理性、独創性、正確性を重視する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特殊研究b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究クラスである。博士課程前期課程 旧約聖書神学特研 I a との合同授業であるが、後期課程院生には、それにふさわしい討論への貢献が求められる。</p>	
<p><授業の概要> 今学期は、イスラエルにおける数について考察する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 「五千人の給食 四千人の給食」の意味 2. 出エジプト記12:37 60万人とは何の数か 3. 十二部族 4. マルティン・ノート 「千」とは1000か 5. 「千代に及ぶ祝福」 6. 民数記1章の数 7. 民数記7章の捧げものの目録 8. エズラ記2章の数 9. 列王記上8章の捧げもの 10. ギデオンの軍隊 11. 6年収穫して、7年目には休ませる 12. 6日働いて、7日目は聖なる安息日 13. 「民の数は数えてはならない」 14. 実数と意味 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> 参考文献はそのつど指示するが、いくつかの註解書を各自選んで常に参照すること。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題発表の内容と、毎回の討論への参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書文学特殊研究 a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 黙示文書として知られるダニエル書を取り上げ、この書と祭儀の関係についてあらゆる視点から考察する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：ダニエル書総論、ダニエル書とはどういう書か。 第3回：ダニエル書1章 第4回：ダニエル書2章 第5回：ダニエル書3章 第6回：ダニエル書4章 第7回：ダニエル書5章 第8回：ダニエル書6章 第9回：ダニエル書7章 第10回：ダニエル書8章 第11回：ダニエル書9章 第12回：ダニエル書10章 第13回：ダニエル書11章 第14回：ダニエル書12章 第15回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回、ダニエル書を1章ずつ釈義し、それに基づいて「祭儀」との関係について討議する。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書を用いるが、和洋の注解書をも参照する。</p>	
<p><参考書> その都度、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 各章をレポートしていただき、また学期末にダニエル書について提出レポート（8000字）によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書文学特殊研究 b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 旧約聖書におけるイスラエル 12 部族のありようと諸部族の歴史について考察する。演習形式で行う。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：「イスラエル」について 第 3 回：創世記 49 章 第 4 回：申命記 33 章 第 5 回：イスラエル 12 部族連合について 第 6 回：ユダ族 第 7 回：ベニヤミン族 第 8 回：ヨセフ族（マナセとエフライム） 第 9 回：レビ族 第 10 回：ルベン族、シメオン族、ゼブルン族 第 11 回：イサカル族、ダン族、ガド族 第 13 回：アシェル族、ナフタリ族 第 15 回：総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回担当者に発表していただき、それに基づいて全員で討議する。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書</p>	
<p><参考書> 並木浩一「イスラエル部族表における十二部族組織の展開」『古代イスラエルとその周辺』（新地書房）。そのほかについては、その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への積極性、また学期末の提出レポート（約 8000 字）によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典特殊研究 b	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典である写本とマソラ本文、特にマソラの専門的知識を修得し、ユダヤ教正典（Miqra）としての本文と諸現象の理解を深め、テキストの神学と聖書学的解釈の地平を展望する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>創世記1，2章の2つの天地創造物語を、代表的ベン・アシェル写本であるレニングラード写本（L）で読み、ヒブル語本文の諸現象とユダヤ教聖書学の結晶であるマソラを学び、テキストの神学を探る。積義的諸方法、特に構文といわゆる本文批判の諸問題を精査し、諸訳を参照しつつ積義する。後期課程「旧約聖書原典積義 I b」と合同。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語文法修得者</p>	
<p><授業計画><授業計画></p> <p>第1回：創世記1：1－2 天地の創造</p> <p>第2回：創世記1：3－5 第一日 光</p> <p>第3回：創世記1：6－8 第二日 大空</p> <p>第4回：創世記1：9－13 第三日 地と海、植物</p> <p>第5回：創世記1：14－19 第四日 光るもの</p> <p>第6回：創世記1：20－25 第五、六日 生き物</p> <p>第7回：創世記1：26－28 第六日 人間</p> <p>第8回：創世記1：29－31 食物</p> <p>第9回：創世記2：1－3 第七日 安息日</p> <p>第10回：創世記2：4－6 地</p> <p>第11回：創世記2：7－9 人間</p> <p>第12回：創世記2：10－14 四つの川</p> <p>第13回：創世記2：15－17 戒め</p> <p>第14回：創世記2：18－20 結婚（1）</p> <p>第15回：創世記2：21－25 //（2）</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本（Codex Leningradensis）、アレppo写本（Codex Aleppo）写真版。辞書は Gesenius、BDB 或いは HALOT（HALAT）。</p>	
<p><参考書></p> <p>「ヒブル語入門」12. 補説：本文の諸現象（補注一覧）（改訂増補版 左近／本間）、「旧約聖書の本文研究」（E. ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、Leitfaden zur Biblia Hebraica(R.Wonneberger), A simplified guide to BHS(H.P.Rueger), Massorah Gedolah - iuxta Codicem Leningradensem(ed. G.E.Weil)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>討議及び、写本とマソラ本文の課題に関するレポートによって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
聖書語学特殊研究 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> ペシッタを読むために必要なシリア語の文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画> 第1回：序 シリア語を学ぶ意義等話し、子音について（1）ヤコブ派の書体を学ぶ。 第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。 第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。 第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。 第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。 第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。 第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。 第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。 第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。 第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。 第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。 第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。 第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。 第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。 第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況、ペシッタのテキストの中から指定された箇所に関する発表によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
聖書語学特殊研究 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> シリア語の文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書等をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであること並びに聖書語学特殊研究 a（シリア語）履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：不規則動詞について（1） Pê Nun 動詞の変化を学ぶ。 第2回：不規則動詞について（2） Lāmed 喉音動詞の変化を学ぶ。 第3回：不規則動詞について（3） Pê 'alep 動詞の変化を学ぶ。 第4回：不規則動詞について（4） Pê Yōd 動詞の変化を学ぶ。 第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。 第6回：不規則動詞について（6） 二重'ayin 動詞の変化を学ぶ。 第7回：不規則動詞について（7） Lāmed Hê・Lāmed Yōd 動詞の変化を学ぶ。 第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。 第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。 第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。 第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。 第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。 第13回：エレミヤ書等の講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。 第14回：エレミヤ書等の講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：エレミヤ書等の講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況、ペシッタのテキストの中から指定された箇所に関する発表によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書神学特殊研究 a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> テサロニケの信徒への手紙一、二の積義を通して初期キリスト教の形成、パウロ伝道について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> テサロニケの信徒への手紙一、二の積義。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テサロニケの信徒への手紙一、概説 2. テサロニケの信徒への手紙一、1章 3. テサロニケの信徒への手紙一、2章 4. テサロニケの信徒への手紙一、3章 5. テサロニケの信徒への手紙一、4章 6. テサロニケの信徒への手紙一、5章 7. テサロニケの信徒への手紙一、総括 8. テサロニケの信徒への手紙二、概説 9. テサロニケの信徒への手紙二、1章 10. テサロニケの信徒への手紙二、2章 11. テサロニケの信徒への手紙二、3章 12. テサロニケの信徒への手紙二、総括 13. テサロニケの信徒への手紙一、二 終末論 14. テサロニケの信徒への手紙一、二 レトリック 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 担当する箇所を G.フィー『新約聖書の積義』に従って積義し、発表、検討し合う。</p>	
<p><テキスト>適宜紹介する。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回購読箇所を原文で読み準備してくること。発表、議論への貢献等による授業参加、期末課題。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書神学特殊研究 b	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 使徒パウロの伝道活動とパウロ教会について学ぶ。	
<授業の概要> テキストを講読、批判検討しながら、パウロ書簡、初期キリスト教の形成について学ぶ。	
<履修条件>	
<授業計画> 1. オリエンテーション 2. ミークス序論 3. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 33-64頁 4. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 65-112頁 5. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 144-168頁 6. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 169-190頁 7. ミークス第三章 「教会の形成」 205-246頁 8. ミークス第三章 「教会の形成」 247-280頁 9. ミークスの方法論の検討 10. ミークス第四章 「統治」 301-334頁 11. ミークス第四章 「統治」 335-360頁 12. ミークス第五章 「祭儀」 370-413頁 13. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 423-450頁 14. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 451-471頁 15. 総括 受講者の関心により予定は適宜調整する。	
<準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行う。各回発表担当者は議論の紹介をし、受講者と共に批判検討を行う。	
<テキスト> ウェイン・ミークス『古代都市のキリスト教』加山久夫監訳 ヨルダン社、1989年。現在、絶版なので古本等の入手、図書館所蔵のものを使うことを勧める。	
<参考書> 適宜紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回要約を提出。また発表、議論への貢献等による授業参加、期末課題。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典特殊研究 a	遠藤 勝信
前期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの福音書8～9章(論争)の原典積義。研究史、積義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に積義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>はじめに、近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、積義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。積義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と積義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第02回 ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。</p> <p>第03回 テキストの文学批評の実際。</p> <p>第04回 テキストと歴史批評の実際。</p> <p>II. 演習(参加者による積義の発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 ヨハネ8:12～20(証言)の原典積義</p> <p>第06回 ヨハネ8:21～29(イエスの起源)の原典積義</p> <p>第07回 ヨハネ8:30～36(真の自由)の原典積義</p> <p>第08回 ヨハネ8:37～47(アブラハムの子、悪魔の子)の原典積義</p> <p>第09回 ヨハネ8:48～59(アブラハムより偉大な者)の原典積義</p> <p>第10回 ヨハネ9:01～07(盲人の癒やし)の原典積義</p> <p>第11回 ヨハネ9:08～17(しるしの波紋—その1)の原典積義</p> <p>第12回 ヨハネ9:18～23(しるしの波紋—その2)の原典積義</p> <p>第13回 ヨハネ9:24～34(しるしの波紋—その3)の原典積義</p> <p>第14回 ヨハネ9:35～41(さばき)の原典積義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 積義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年</p> <p>R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年</p> <p>R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年</p> <p>C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol. 1</i>, 2003.</p> <p>M. Endo, <i>Creation and Christology - A Study on the Johannine Prologue</i> (WUNT), 2002. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての積義ペーパー [8,000～10,000文字])。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典特殊研究 b	遠藤 勝信
後期・2単位	<登録条件>原則として通年 (a, b) で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの黙示録 12～16 章の原典積義。研究史、積義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に積義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>近年の黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、積義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。積義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語原典テキスト読解力（ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい）を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。</p> <p>第02回 黙示録を読む前に（その1）：黙示録の周辺、背景理解。</p> <p>第03回 黙示録を読む前に（その2）：構造と構成、神学、他。</p> <p>第04回 黙示録1～5章までを概観し、積義の営みにおける課題と観点を確認する。</p> <p>II. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に</p> <p>第05回 黙示録12：07～12（天での闘い）の原典積義</p> <p>第06回 黙示録12：13～17（地での闘い）の原典積義</p> <p>第07回 黙示録13：01～04（海からの獣一その1）の原典積義</p> <p>第08回 黙示録13：05～10（海からの獣一その2）の原典積義</p> <p>第09回 黙示録14：01～05（贖われた者と小羊）の原典積義</p> <p>第10回 黙示録14：06～13（さばきの予告）の原典積義</p> <p>第11回 黙示録14：14～20（地の刈り入れ）の原典積義</p> <p>第12回 黙示録15：01～08（七つの鉢の準備）の原典積義</p> <p>第13回 黙示録16：01～07（怒りの注ぎ一その1）の原典積義</p> <p>第14回 黙示録16：08～14（怒りの注ぎ一その2）の原典積義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 積義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・中巻）2009年</p> <p>R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年</p> <p>R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i>, 1993.</p> <p>G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999.</p> <p>D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997.</p> <p>S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業における発表と期末試験（指定されたテキストの積義ペーパー[8,000～10,000文字]）。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
聖書解釈学特殊研究 a	中野 実
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書学における重要研究課題について学び、その理解を深めることがクラスの目標。今回は、テーマとしてヘブライ人への手紙を取り上げる。</p>	
<p><授業の概要> ヘブライ書の原典から日本語に翻訳するという課題について共に学んでみる。</p>	
<p><履修条件>通年で履修するのが原則。そうでない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>	
<p><授業計画> 毎回、担当教員（中野）が用意したヘブライ書の日本語訳および他の日本語訳を、ギリシャ語原典に照らし合わせながら、吟味、検討することが、クラスの具体的内容。毎回担当学生を決め、翻訳を検討する役割を果たしてもらう。その際、本文批評上の問題、単元の区切りの問題、文法上の問題、内容的、神学的問題、日本語の問題などの視点から検討してもらう。</p> <p>1 オリエンテーション 2 ヘブライ書の緒論 著者問題、成立年代、成立地、宛先など 3 緒論 構成など 4 1 : 1-4 5 1 : 5-14 6 2 : 1-4 7 2 : 5-18 8 3 : 1-6 9 3 : 7-19 10 4 : 1-13 11 4 : 14-16 12 5 : 1-10 13 5 : 11-6 : 3 14 6 : 4-12 15 6 : 13-20</p>	
<p><準備学習等の指示> クラスにおいて指示する。</p>	
<p><テキスト> 旧、新約聖書（いくつかの翻訳）、ギリシャ語の新約聖書など。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、担当者がクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの積極的参加（出席、発表、質問、コメントなど）を求める。出席、分担発表、参加度（40%）、および（8000~10000字の）期末レポート（60%）によって総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
聖書解釈学特殊研究 b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>特になし
<授業の到達目標及びテーマ>前期の欄を参照	
<授業の概要>前期と同じ	
<履修条件>前期と同じ	
<p><授業計画>前期の項目を参照。</p> <p>1 7:1-10 2 7:11-19 3 7:20-28 4 8:1-6 5 8:7-13 6 9:1-10および11-14 7 9:15-23 8 9:24-28 9 10:1-10 10 10:11-18 11 10:19-25 12 10:26-31 13 10:32-39 14 11:1-40 (11:1-22) 15 11:1-40 (11:23-40)</p>	
<準備学習等の指示>必要に応じてクラスで指示する	
<テキスト>前期の項目を参照	
<参考書>必要に応じて担当者がクラスで指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席、分担発表、参加度(40%)と(8000~10000字の)期末レポート(60%)によって総合的に評価する。ただし、出席が3分の2に達しない場合、原則として評価の対象にしない。	

聖書神学専攻	
博士論文指導演習聖書神学 a	各指導教授
前期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者は、博士論文指導演習聖書神学 b と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>	
<p><授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p>	
<p><履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者。</p>	
<p><授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p>	

聖書神学専攻	
博士論文指導演習聖書神学 b	各指導教授
後期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者は、博士論文指導演習聖書神学 a と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。</p>	
<p><授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p>	
<p><履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者。</p>	
<p><授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
教義学特殊研究 a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「キリスト教と諸宗教」の問題をめぐり、キリスト教の位置をどう示すべきか検討する</p>	
<p><授業の概要> 上記の目的のため、「キリスト教の絶対性」「宗教的寛容の神学」「宗教的多元主義の神学」という三大テーマを取り上げる。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業の全体的展望 2、「キリスト教の絶対性」の問題 3、E. トレルチにおける「キリスト教の最高妥当性」 4、「素朴な絶対性」の真理契機 5、「キリスト教の絶対性」という問題の総括 6、「宗教的寛容」の宗教的資源 7、J. ハーバーマスの「公共圏」における「宗教的理性」の復権 8、「宗教的寛容」の神学 9、「宗教的寛容」をめぐる総括 10、宗教的多元性の現実 11、「宗教的多元主義の神学」の誤謬 12、排他的福音の包括性 13、パネンベルクの誤りとモルトマンの誤り 14、聖書の普遍性と希望の命題 15、「キリスト教と諸宗教」の問題の総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 講義内容のテキストを配布する。</p>	
<p><参考書> トレルチ『キリスト教の絶対性と宗教史』; C. Schwöbel, Toleranz aus Glauben(2002); デコスタ編『キリスト教は他宗教をどう考えるか』など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 三つのテーマのいずれかについて文献と取り組んだレポート（6000字程度）を求める</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
教義学特殊研究 b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教義学序説の主題「啓示と聖書」を「なぜ啓示なのか」「聖書とは何か」の問いを深化させて扱う</p>	
<p><授業の概要> 啓示を「歴史的啓示」として、聖書を「証言としての聖書」として把握し、歴史的認識と霊的認識の相互関係・相互浸透の理解に努める</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、なぜ啓示か 2、啓示とは何か 3、啓示とその担い手 4、聖書と啓示 5、証言としての聖書 6、旧約聖書と新約聖書 7、「歴史のイエス」における啓示 8、「歴史のイエス」の言葉と神の国 9、「歴史のイエス」の業と神の国 10、「歴史のイエス」の十字架と復活 11、歴史的啓示における神の認識 12、歴史的な方法と神学的方法 13、啓示者イエスと啓示される神 14、啓示の認識としてのイエスの神性認識 15、全体の総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『啓示と三位一体』（教文館、2007年）</p>	
<p><参考書> バルト『教会教義学』1/1,1/2; パネンベルク他『歴史としての啓示』など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 文献と取り組んで6000字程度のレポートを提出すること。事柄の内容をどの程度理解しているかを示すのによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代神学特殊研究 a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> A. マクグラスのテキストを手がかりに、伝統的なキリスト教の救済論を顧みつつ、現代における救済論の新たな展開の可能性を探る。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらった後、参加者全員で討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 主題と探求方法についてオリエンテーションを行い、分担を決める。</p> <p>第2回 『キリストの死と復活の意味』1章—2章の内容を検討する。</p> <p>第3回 『キリストの死と復活の意味』3章—4章1節の内容を検討する。</p> <p>第4回 『キリストの死と復活の意味』4章2節の内容を検討する。</p> <p>第5回 『キリストの死と復活の意味』4章3節—4章5節の内容を検討する。</p> <p>第6回 『キリストの死と復活の意味』5章—6章の内容を検討する。</p> <p>第7回 『十字架の謎』1 の内容を検討する。</p> <p>第8回 『十字架の謎』2 の内容を検討する。</p> <p>第9回 『十字架の謎』3 の内容を検討する。</p> <p>第10回 『十字架の謎』4 の内容を検討する。</p> <p>第11回 『十字架の謎』5 の内容を検討する。</p> <p>第12回 『十字架の謎』6 の内容を検討する。</p> <p>第13回 『十字架の謎』7 の内容を検討する。</p> <p>第14回 『十字架の謎』8 の内容を検討する。</p> <p>第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> A. マクグラス『キリストの死と復活の意味』（いのちのことば社、1995年）ならびに同著『十字架の謎』（教文館、2003年）を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に自分の研究テーマと関連した小論文を提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代神学特殊研究 b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ジェームズ・デニーの古典的なテキストを手がかりに、伝統的なキリスト教の救済論を顧みつつ、現代における救済論の新たな展開の可能性を探る。</p>	
<p><授業の概要> 担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画> 第1回 ジェームズ・デニーの贖罪論の特徴について導入的な考察をし、分担を決める。</p> <p>第2回 『キリスト教の和解論』 9－39頁の内容を検討する。</p> <p>第3回 『キリスト教の和解論』 41－70頁の内容を検討する。</p> <p>第4回 『キリスト教の和解論』 70－98頁の内容を検討する。</p> <p>第5回 『キリスト教の和解論』 98－126頁の内容を検討する。</p> <p>第6回 『キリスト教の和解論』 126－149頁の内容を検討する。</p> <p>第7回 『キリスト教の和解論』 151－178頁の内容を検討する。</p> <p>第8回 『キリスト教の和解論』 178－201頁の内容を検討する。</p> <p>第9回 『キリスト教の和解論』 202－228頁の内容を検討する。</p> <p>第10回 『キリスト教の和解論』 229－258頁の内容を検討する。</p> <p>第11回 『キリスト教の和解論』 258－286頁の内容を検討する。</p> <p>第12回 『キリスト教の和解論』 287－320頁の内容を検討する。</p> <p>第13回 『キリスト教の和解論』 320－352頁の内容を検討する。</p> <p>第14回 『キリスト教の和解論』 353－407頁の内容を検討する。</p> <p>第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> J.デニー『キリスト教の和解論』（J.デニー著作集第4巻、一麦出版社、2008年）を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に自分の研究テーマと関連した小論文を提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代哲学特殊研究 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。</p>	
<p><授業の概要> バルトの『教会教義学』から創造論中の「神と虚無的なもの」(50節)を学ぶ。悪の实在の問題を扱っているテキストの内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テキスト、3～15頁 (1. 虚無的なもの問題) 3. 同、16～28頁 (2. 虚無的なもの誤認) 4. 同、29～43頁 (3. 虚無的なもの認識①) 5. 同、43～50頁 (同②) 6. 同、50～65頁 (同③) 7. 同、66～83頁 (同④) 8. 同、83～94頁 (同⑤) 9. 同、94～111頁 (同⑥) 10. 同、112～124頁 (同⑦) 11. 同、125～136頁 (4. 虚無的なもの实在①) 12. 同、136～148頁 (同②) 13. 同、149～157頁 (同③) 14. 同 157～163頁 (同④) 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅲ/2 創造者とその被造物〈下〉』、吉永正義訳(新教出版社、オンデマンド)、3～163頁。</p>	
<p><参考書> 授業の中で適宜、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度および期末のレポートによる。レポートは担当教員の指導の下で8,000～10,000字程度のものを書いて貰う。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
神学史特殊研究 a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>「洗礼、聖餐、教会と職務―中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コースの紹介。履修者との導入討議。</p> <p>第2回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名）</p> <p>第3回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名）</p> <p>第4回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書）</p> <p>第5回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン）</p> <p>第6回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他）</p> <p>第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」）</p> <p>第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」）</p> <p>第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他）</p> <p>第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言）</p> <p>第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など）</p> <p>第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」）</p> <p>第13回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J. ウェスレーと「宗教箇条」）</p> <p>第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革―長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他）</p> <p>第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>『洗礼・聖餐・職務―教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E.マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め30枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
神学史特殊研究 b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 組織神学専攻者の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務ー中世・宗教改革から現代まで」。主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ずWCCの「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：コース紹介。履修者との導入討議。 第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名） 第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アクイナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」） 第13回：資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革ー長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 『洗礼・聖餐・職務ー教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。A.E.マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。</p>	
<p><参考書> 授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表を除き、平生は資料研究センターなので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自教会と職務のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。そして現代神学と実践の立場から教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰め30枚以内）。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教父学特殊研究 a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> 古代教会におけるキリスト論と三位一体論の形成と展開を学ぶ。前期には、使徒教父からアレキサンドリア学派までを扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらう。同時に、Stead の書物を読んで、講義と平行して内容を把握する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：使徒教父に見られるキリスト論の特色及び三位一体論の萌芽的な言及を概観する。 第2回：ユステイノス『第一弁明』に見られるロゴス・キリスト論の特色について。 第3回：弁証家に見られる三位一体論の萌芽。祈りの法則と信仰の法則の関係。 第4回：反グノーシスの教父のキリスト論と三位一体論①エイレナイオス 第5回：反グノーシスの教父のキリスト論と三位一体論②テルトゥリアヌス 第6回：グノーシス主義とキリスト教教理の展開 第7回：モナルキアニズムの実像 第8回：モンタニズムの実像と三位一体論形成への影響再考 第9回：古代教会における聖餐と洗礼と三位一体論 第10回：アレキサンドリア学派の神学の特色 第11回：アレキサンドリアのクレメンスのキリスト論と三位一体論 第12回：オリゲネス『諸原理について』のキリスト論と三位一体論 第13回：聖霊の神学の形成と展開 第14回：中期プラトン主義の影響と三位一体論 第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教理史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> ケリー『初期キリスト教教理史上』（一麦出版社） Stead, <i>Philosophy in Christian Antiquity</i>, Cambridge（邦訳『古代キリスト教と哲学』（教文館）を読んでレポートする。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、その他は、都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と Stead の書物を用いての小論文（400字×30枚）</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教父学特殊研究 b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料の読解の能力を高める</p>	
<p><授業の概要> 古代教会におけるキリスト論と三位一体論の形成と展開を学ぶ。ニカイアの教父からアウグスティヌスまでを後期は扱う。必要に応じて、一次史料を読んで、発表してもらおう。同時に、Gwynn と Ayres の書物を読んで講義と平行して内容を把握する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 第1回：ニカイア会議に至る道概観 第2回：アレイオス論争とアレイオスの思想 第3回：4世紀初頭のアレキサンドリアの現状とエウセビオスの政治神学概観 第4回：アタナシオスと教会 第5回：アタナシオス神学の特色とキリスト論 第6回：初期修道制と教理論争 第7回：ヒラリウス『三位一体論』と西方における三位一体論 第8回：カパドキアの三教父の生涯と神学 第9回：バシレイオス『聖霊論』を読む 第10回：ナジアンゾスのグレゴリオス『神学講話』を読む 第11回：カパドキア教父の後期アレイオス主義 第12回：アウグスティヌスの生涯と神学形成 第13回：アウグスティヌス神学の特色 第14回：アウグスティヌス『三位一体論』を読む。 第15回：全体のまとめと質疑。</p>	
<p><準備学習等の指示> 古代教理史の知識を整理しておくこと。</p>	
<p><テキスト> ケリー『初期キリスト教教理史下』（一麦出版社）。各自の研究分野ごとの二次文献をレポートする。</p>	
<p><参考書> ペリカン『キリスト教の伝統』1巻（教文館）、その他は、その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスでの貢献と定められた一次史料をを讀んでの小論文（400字×30枚）</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特殊研究 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>宗教改革後の正統主義派に抗して起こった敬虔主義運動の中に、理論と実践における優れた教育的貢献を見ることができる。近代教育の創始者といわれるモラヴィア派のコメニウスはそこから排出された。それらの経緯と内的関連を考察する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>敬虔主義運動の中心に立つモラヴィア兄弟団とそこから多大な影響を受けたジョン・ウェスレーの神学思想の特徴を見、それが必然的に教育的展開をもち、日曜学校運動へと繋がることを跡づけ、確認していく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 敬虔主義と教育一序説 2. ドイツ敬虔主義の創始者 Ph. J. シュペーナーの主張 3. A.H.フランケのキリスト教的人間形成理論 4. N.L.ツィンツェンドルフによる継承と発展一神学と教育一 5. 教育史におけるモラヴィア派の意義一ヘルンフト居住とその後一 6. J.ウェスレーとモラヴィア派一出会いとイギリス帰国後の活動一 7. フランケとウェスレーにおける聖化の強調、「キリスト者の完全」 8. モラヴィア派との訣別一ツィンツェンドルフとの対話一 9. J.ウェスレーにおける義認と聖化 10. J.ウェスレーのキリスト教教育論 11. J.ウェスレーとキングスウッド・スクール一当時の宗教教育状況一 12. J.ウェスレーと日曜学校運動 13. アメリカ・メソジスト監督教会の日曜学校運動一初期 14. アメリカ・メソジスト監督教会の日曜学校運動一組織的発展 15. 全体的考察一総括一 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>毎回の授業の前半に、受講生が順次発表するが、非発表者も次回扱うテキスト箇所を事前に読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>青山学院大学キリスト教文化研究センター篇、『ジョン・ウェスレーと教育』、ヨルダン社、1999年。各自購入しておくこと。購入困難な場合は、担当講師が調達する。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業時に随時、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業数の2/3以上の出席を前提として、各自の発表と毎回の授業参加度、およびレポート（5000～6000字、その際参考文献2冊以上列举、利用のこと）提出を評価する。</p>	

組織神学専攻	
博士論文指導演習組織神学 a	各指導教授
前期・0単位	<登録条件>2011年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者は、博士論文指導演習組織神学bと通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、第一次文献の読解や第二次文献との対論などを通して、博士論文の部分的作成に寄与する。</p>	
<p><授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容・表現などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p>	
<p><履修条件> 2011年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者。</p>	
<p><授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p>	

組織神学専攻	
博士論文指導演習組織神学 b	各指導教授
後期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者は、博士論文指導演習組織神学 a と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、第一次文献の読解や第二次文献との対論などを通して、博士論文の部分的作成に寄与する。</p>	
<p><授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容・表現などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。</p>	
<p><履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者。</p>	
<p><授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p>	